

平成11年度試験研究成果

区分	指導	題名	日本短角種産肉能力検定（直接法）成績		
〔要約〕 平成10年度に実施した日本短角種産肉能力検定（直接法）の結果、5頭の間接検定候補牛を含む7頭が選抜された。					
キ - ワ - ド	日 本 短 角 種	産 肉 能 力 検 定	直 接 法	畜産研究所 家畜育種研究室	

1. 背景とねらい

日本短角種の産肉能力の向上を図るため、改良基地内で計画生産された種雄候補牛について、同一環境下で直接検定を実施し、優良種雄牛を選抜する。

2. 技術の内容

- (1) 直接検定候補牛の選抜は、肉質の優れた基幹種雄牛の産子、母の超音波肉質測定結果がBMS 4以上であった産子、きょうだい牛の枝肉成績がBMS 3以上の産子を優先した。
- (2) 検定頭数は34頭であった。うち2頭は検定を中止したため、終了頭数は32頭であった。
主要な検定成績の平均値は、平均日増体量(DG) : 1.23kg、皮下脂肪厚(BF) : 89mm、総合育種価(H) : 0.52であった。
- (3) 選抜頭数は7頭、選抜率は21%で、選抜差は、DG : +0.03、BF : +2、H : +1.56であった。
- (4) 産肉性の総合育種価、血統、検定成績、体型等を比較検討し、平成13年度間接検定開始予定牛5頭(検定番号2 : 川清、6 : 勝富、10 : 松隆、15 : 松秋、19 : 辰錦)を選抜した。
選抜差は、DG : -0.04、BF : +2、H : +2.52であった。

3. 指導上の留意事項

- (1) 産肉性の総合育種価は、過去10カ年の産肉能力検定成績を用いて、間接検定におけるDGを1.12kgから変化させずにBMS を1、現在より改良する目標に沿って選抜を行うために算出している。
- (2) 皮下脂肪厚の測定は、検定牛の体重が470kgに到達した時点で行う。
測定には超音波家畜生体肉質測定装置スーパーアイミート(富士平工業(株))を用い、8カ所の背脂肪の厚さを合計した値を、皮下脂肪厚としている。
- (3) 6、15、16、19、30号牛の母牛は、超音波家畜生体肉質測定の結果、肉質が優れていると判定された。

4. 技術の適応地帯

日本短角種飼養地帯

5. 当該事項に係る試験研究課題

〔肉用牛1〕1 - (3) - ア 日本短角種産肉能力検定（直接法）

6. 参考文献・資料

- (1) 平成11年度日本短角種産肉能力検定検討会資料；農林水産省家畜改良センター奥羽牧場他，1999

7. 試験成績の概要

1) 選抜牛の概要

番号	名号	生年月日	血		統		産地・生産者		
			父	登録	母	登録		母の父	登録
2	川清	H10.01.12	川福	本1026	たき87010	本16001	沢清	本 626	肉牛生産公社
6	勝富	H10.03.10	敏富	本1214	さわひかり	本21439	若花	本 772	川井村 山口益吉
10	松隆	H10.03.11	松錦	本1259	べごにあ	本24438	波宝	本 957	安代町 立花隆
15	松秋	H10.03.05	秋月	本1211	はなひめ	本25016	若花	本 772	釜石市 佐藤僚一
16	若萩	H10.01.10	若花	本 772	はぎほし	本24910	崎宝	高 13	山形村 竹田源一
19	辰錦	H10.03.02	松錦	本1259	さとみ91	本22799	琴房	本 901	安代町 関辰夫
30	藤富	H10.04.17	敏富	本1214	ふじふく	本20127	福波	本 763	川井村 山口勤

2) 選抜牛検定成績と選抜差

番号	名号	D G	皮下	総合	育種価	母牛	間接	畜研	貸付先
			脂肪厚	育種価	順位	超音波	検定	保留	
						BMS			
2	川清	1.21	84	0.66	16				待機 JA岩手宮古岩泉
6	勝富	1.17	98	3.66	3	4			待機 畜研保留
10	松隆	1.30	98	3.53	4				待機 浄法寺町
15	松秋	1.15	91	3.43	5	4			待機 JA新岩手安代
16	若萩	1.48	95	-2.31	29	5			JA岩手宮古岩泉
19	辰錦	1.13	83	3.90	2	4			待機 JA陸中
30	藤富	1.38	91	1.70	12	4			久慈市畜産開発公社
検定牛平均		1.23	89	0.52					
選抜牛平均		1.26	91	2.08					
(選抜差)		+ 0.03	+ 2	+1.56					
間検選抜牛平均		1.19	91	3.04					
(選抜差)		-0.04	+ 2	+2.52					